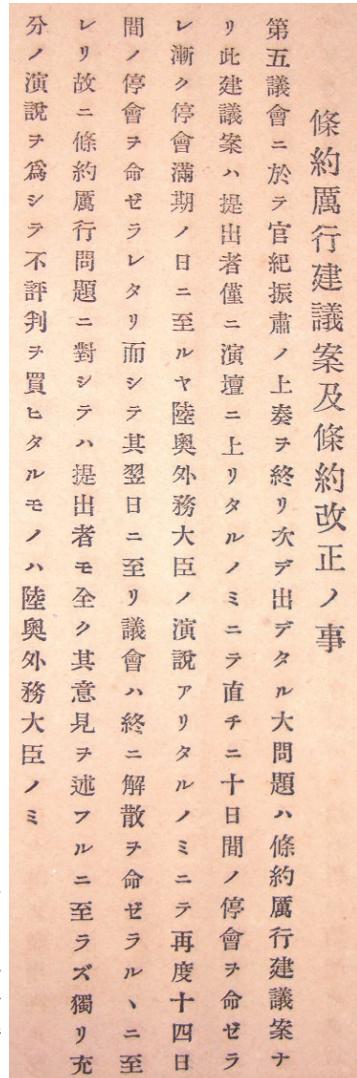


# 初期議会と条約改正

\*梶山家文書319「第五帝国議会報告及意見書」  
\*山口県豊浦郡小串出身の衆議院議員、大岡育造が第五議会解散後、その報告をし、自分の意見を述べたもの。「条約励行建議案」は説明も許されず10日間の停会、再開後も陸奥外相が演説したのみで停会、翌日には議会は解散させられました。



## 解説

国会が開設された当初の、民党（今でいう野党）が優勢な第一～第六帝国議会を、初期議会といいます。

第二次伊藤博文内閣は元勲内閣ともよばれる重厚な布陣でしたが、それでも第五・第六議会（1893〔明治26〕年・94年）は民党的分裂もあり、条約改正問題等をめぐり混乱を極めました。

この資料で、大岡は井上馨以来の政府による条約改正への経緯と国際情勢を述べた上で、いわゆる「現行条約励行運動」（外国人の日本国内における活動や生活を制約しつつ条約改正を行い、平等条約を実現しようとする反政府運動）への賛意を述べています。

外国を刺激することを恐れた伊藤は、両議会を相次いで解散しました。

日英通商航海条約の締結により領事裁判権が撤廃され、諸外国と対等な地位が実現したのは、日清戦争開戦の2週間前の1894（明治27）年7月16日でした。開戦をうけて広島で開かれた第七議会は、満場一致で戦費予算を承認し、内閣と議会の全面対決は終わりました。

\*初期議会の関連資料に、衆議院議員だった吉富簡一による「第六議会報告書」（武永家文書184）があります。